

# 筑波大学名誉教授の会報

第9号

2004年4月発行

〈題字：中村伸夫〉

## 抱負

学長 岩崎洋一

皆様ご存知のとおり、この4月1日から全ての国立大学は法人化します。この法人化は、明治19年の帝国大学令公布、昭和24年の新制国立大学発足以来の、国立大学の存在基盤を変える大改革です。この大激動期に、国立大学法人筑波大学の初代の学長に就任することの責任の大きさを痛感しています。

本学は、開学以来30年間、大学改革の先頭に立ってきましたが、その経験と人材を生かしながら、全員意識改革をし、新たな大学を創設するくらいの意気込みで法人化に対応する必要があります。体育・芸術まで含む国立大学唯一の総合大学であること、筑波研究学園都市に位置すること、東京大塚にキャンパスを有すること、教育・研究における今までの伝統・実績など、本学の特色・強みを最大限に活用して、国際的に存在感のある、大学院に重点をおいた研究型総合大学を構成員と力を合わせ作り上げたい、それが私の抱負です。

大学が法人として自主的・自律的に活動するためには、執行部と構成員との間に強い信頼関係を築き、大学の方針・目標を共通認識として共有すること、さらに、誰もが自らの仕事に意欲を感じることでできる環境を作ることが大切です。そのために、組織の簡素化と運営の効率化、大学運営の民主化、評価とそれに基づく資源配分の適正化、経営システムの確立と経営基盤の強化、安全で快適な教育・研究環境の整備、情報システムの整備・拡充、教官と事務官の協調体制の強化などに取り組む積りです。

大学の使命の一番の基本は教育です。社会からの要請に応えるように、大学院博士課程教育の高度化、学群教育の充実、大学院修士課程の整備と専門職大学院の創設など教育システムの改革を通じて、国際的な競争の中で活躍できる人材を養成したいと思います。(次頁へ続く)



新工事で広がった筑波大学・学校教育部出入口  
(もと、東京教育大学文学部E館出入口)



茗荷谷駅近くの桜の並木 (文京区3大名所の1つ)

撮影：島岡丘

研究については、人文・社会・理学・工学・農学・医学・体育・芸術など、本学は広範な研究分野をカバーしています。分野によって、社会に貢献する仕方も、時間軸も大きく異なることを考慮し、学術的・国際的価値の高い基礎研究と社会的要請の大きい応用研究を、両者のバランスをとって推進したいと思っています。

世界的な研究拠点を創出するには、戦略が必要です。「研究戦略企画室」を立ち上げ、大学全体の研究戦略を練り、21世紀 COE に採択された拠点をいっそう充実させるとともに、新たな拠点形成を進め、採択拠点の倍増と、それらの研究拠点を核にした研究センターの新設を図りたいと思います。また、筑波研究学園都市という立地を生かして、他の研究機関・企業と連携し、ナノ・バイオ・環境・情報などの分野で本学を核とした世界から認知される研究拠点を構築したいと思っています。

社会からは、特許に基づく起業、研究成果の企業化等によるこれまで以上の直接的貢献が求められています。そのような社会のニーズに応えるために、研究活動による知的財産の活用を積極的に進めるとともに、本学の特色と実績を生かし、健康・精神・スポーツ・文化活動面を中心とする社会貢献も推進したいと思っています。

法人化後に色々な局面が展開すると思いますが、法人化を筑波大学が飛躍するチャンスと捉え、今より一層存在感のある大学にしていきたいと思っています。名誉教授の方々のご支援・ご鞭撻をお願いいたします。

## 学長退任にあたって

—まっしぐら 走りし六年 桐仰ぐ—

前学長 北原保雄

6年の任期を満了して、学長職から解放されることになりました。その間に、名誉教授の皆さんから賜りました多大なご支援とお励ましに心から感謝申し上げます。お陰様で幸い健康にも恵まれ、大過なく任を全うすることができ、ありがたく思っています。

いろいろな点で、私には特別な巡り合わせがありました。20世紀と21世紀の2世紀にわたる在任は100年に1度しかできないことですし、6年間の在任中に開学25周年と30周年と2回も記念行事をすることも、珍しいことです。白川英樹名誉教授のノーベル化学賞受賞も幸運なことでした。

図書館情報大学との統合も、時代の流れで生じたことです。筑波大学に、開学以来初めて新しい学群が誕生しましたが、私個人も、図書館情報大学長を併任し、2つの国立大学の学長になりました。これも特別なことです。そして、国立大学最後の学長となりました。

私自身も大学のさらなる発展のために専心尽瘁し、大学改革や新しい試みをかなり大胆に断行することができたと思っています。中でも、大学院博士課程研究科の改組再編は、本学の進むべき方向を決定づけるものだったと思っています。遅きに失しましたが、この改革ができなかったら、本学はどうなっていたらと思うと、冷汗がでる思いです。

これからの10年を見越した「筑波大学の将来設計」を策定し、それに沿って、6年間の「中期目標・中期計画」の素案も作成しました。これからは、教育・研究の内容をさらに充実し、活性化、高度化し、社会貢献の実を挙げることが課題ですが、新体制は大いにやってくれるものと期待しています。

## ご挨拶

会長 原 康夫

筑波大学名誉教授の会の会長に選出されて二年目に入りました。昨年は筑波大学創立30周年にあたり、会員の皆様も筑波大学の歴史を想起されることが多かったかと思います。私も『筑波大学三十年史』に30年間の教育活動の分担執筆を依頼され、前半を担当しましたので、初期の『筑波フォーラム』などを読み返して、会員の皆様が夢を抱きつつ山積する困難に立ち向かわれていた頃を思い出しました。

私にとって筑波大学に在職中の忘れられない出来事の一つは、1994年に筑波大学視察団の一員としてカリフォルニア大学バークレー校を訪問した際に、「筑波大学の日本でのランキングは」と尋ねられ、とっさに「One of the Best Five」と答えたことでした。この間答を念頭に置きつつ三十年史を執筆しました。

大学に入学してくる学生も、社会の大学への要求も30年の間に大きく変わりました。名誉教授の会の会員にとって筑波大学への想いは様々だと思いますが、筑波大学の充実発展を期待する想いは共通だと思えます。名誉教授の会は名誉教授の親睦を図る会ではありますが、会員数は約400名に達しています。知恵と経験と余暇のある名誉教授を筑波大学のボランティアとして活用することも考えられるのではないのでしょうか。

名誉教授の会の活動についてのご意見をお聞かせください。yshara@r05.itscom.net

## 筑波大よ、輝く瞳で世界へ！

元学長 宮島龍興

筑波大学も30年たって平均的の大学になってしまったのか、華々しい話題がたまにしかきこえてこないのは残念です。その中で、漫才をきいて大笑いした糖尿病患者の血糖値が下がったという実験を公開の場で行った村上和雄さんの話は大変に面白い。心の働きで遺伝子が目覚めるといふ「火事場の馬鹿力」に科学的実証を与えたと言えるでしょう。いつの日かその分子論的機構が明らかにされるのを期待したいと思います。若い人の話では、筋肉のトレーニングで年寄の寝たきりが防止され、介護費用が大幅に削減されたという久野譜也さんの実践は健康から病気まで総合的研究をもつ筑波大らしい仕事といえましょう。研究学園都市の中核として大学が全面的に開花する日を待つこと久しです。

30年まえ、紛争の中で、大学の無責任さを反省し、社会に明るい希望を与える新大学建設を夢見ていた私達は、苦しい中でも輝く瞳をもっていたと思います。

大学紛争は世界的事件でした。我国では急速な社会変化に適応できなかった大学への不満が根底にあったにしても、紛争が全国的に広がったのはその上に様々な他の勢力が陰でゆり動かしていた事も確かで、要求をのむ事がまじめな学生たちの要求をみたす事になるとは限らない点が厄介でした。ふだんから教授会自治を主張していた以上、紛争で教育も研究もできなくなった時、全力を盡して解決するか、それができなければ権限を返上して辞任するか、せめて給料を辞退するかして責任をとるなどできた筈です。教授会は何もせず、評議員の中にさえ屈服して精神的自滅の道をえらぼうとする情けない動きが急速に高まってきたのをみて、私はここで決心する外はないと考えました。時の流れに応じて若い人の多様な希望に対応できる自由で強力な教育研究の責任ある制度を目標に、筑波研究学園都市の建設という新しい政府の計画に乗りながら、自分たちの考える理想を実現しようと努力しました。政府の要求を無条件にのむと非難された事も度々ありましたが、福田信之君はじめ熱心な人々と議論しながら新構想を作って行き、文部省等に提案して、まとめ上げて行ったので、非難は全く見当外れだったと思っています。筑波で考えた多くの構想が、その後ほかの大学で何らかの形で実現している多くの事実がある事がそれを示していると思います。(次頁へ続く)



#### 物理学系 古野興平

私は東京教育大学理学部と筑波大学物理学系に合わせて34年間勤務いたしました。その間、原子核実験物理学の分野で、加速器とその周辺装置の開発、ガンマ線分光学による原子核構造の研究、加速器を用いた学際的研究を行い、それらを通じて学群と大学院学生の教育に微力を注いで参りました。現在、今までの仕事をまとめた大学院向け参考書を執筆中ですが、それと同時に高校生を中心に実験物理学の楽しさと大切さを教える機会を模索しております。

#### 物理学系 谷津 潔

大学院では、その頃始まった核融合の研究を専攻しました。大学院修了後東京教育大学に就職し、プラズマ物理学と核融合の研究を続けることができました。筑波大学では、プラズマ研究センターで、世界有数の核融合実験装置 GAMMA10の建設に参加し、退職まで思う存分実験できたことは幸いでした。現在は、実験はできませんが、国際トカマク物理活動 (ITPA) に参加して、世界の核融合研究の進展に関心は持ち続けております。

#### 地球科学系 高橋伸夫

卒業論文では「関東地方における都市化の展開」(共著)を書き、修士論文としては「三島・沼津地区における工業化にともなう都市化の展開」を提出いたしました。博士論文の題目は、「清水市における都市化の展開」であり、パリ第一大学には「日本における工業化による都市形成」(仏文)を提出しました。都市の成長の要因として、「金融の地理学」を研究し、外国の都市研究としては、フランス・ラテンアメリカなども調査し、日本の生活空間など身近な地理学も関心を抱いてきました。

#### 物質工学系 浅野 肇

新入会員の浅野肇です。よろしくお願ひ致します。物質工学系在職中は、高エネルギー加速器研究機構 (KEK) の中性子散乱施設を利用して、セラミックス材料の結晶構造の研究をおこなって参りました。現在、週のうち KEK に3日、筑波大に2日非常勤で勤めております。筑波大では、工学基礎学類の2年生に専門英語を教えております。

#### 電子・情報工学系 斎藤恒雄

筑波大学在職中は電子・情報工学系でメディア情報処理の研究・教育に携わり、充実した楽しい日々を過ごしてきました。現在は、故郷の仙台にある東北文化学園大学で科学技術学部長として勤めております。大学運営と教育・研究の二足の草鞋を履いてすごしています。開学して6年目の新しい大学で、いろいろと大変なことも多いのですが、なんとかユニークで存在感のある大学に育てていきたいと考えています。

#### 体育科学系 鈴木正成

スポーツの体力づくりを考えるスポーツ栄養学と一般人の健康づくりのための運動栄養学の分野で研究・教育してきた。これからもスポーツ選手の筋肉づくりと高齢者の筋肉・骨減弱防止のための高タンパク質スナックのミサイル栄養供給とレジスタンス運動(ダンベル体操)の有効性を検証していく。社会的には玄米ニギニギ体操による寝たきり・痴呆防止の科学の推進に力を入れていく。

筑波大学が成人期を迎えた時期に赴任し、激動の特殊法人化の直前に定年退職いたしました。

基礎医学系で病原細菌に関する研究を、医学専門学群で広い知識と深い人間的洞察力を備えた医師に育てるべき教育を、医学研究科と医科学研究科で真の医学研究者を育てるべく務めたつもりでした。しかし、退職後の「跡地」を見ると残念ながら13年間の努力は水泡に帰したようで、大学人として及第点を取れなかったと自己評価し、一抹の空しさ・寂しさを感じています。今、時流は大学が「象牙の塔」であることの悪い面のみが強調され、評価の対象を研究成果に絞りすぎていることに危機を感じています。大学は知の貯蔵庫でありそれを智慧として普く社会へ還流しなければなりません、果たして筑波大学は？と老婆心が痛みます。

退職後は、郷里（岡山市）の自宅の近隣にある私立大学（管理栄養士の研究・教育）に身を預けて、万事困難な時代になったと痛感しつつも、日々是好日、悠々自適を実践しています。

私が臨床検査の分野に足を踏み入れて丁度30年になります。およそ疾患の診断の50%は問診や聴打診，触診などで診断できますが，最終的な確定診断は血液・尿などの臨床検査や放射線（レントゲン）診断を加えないと不可能です。臨床検査の技術は年々進歩して，今や遺伝子診断の時代を迎えようとしています。私は新しい検査・診断法の開発やその普及に努力してきましたが，定年後も日本臨床検査自動化学会の会長職を続けていくことになりましたので，元気なうちは今後も臨床検査の発展につくしたいと思っています。

私は筑波大学社会医学系に27年間在職し，公衆衛生学，環境衛生学，および環境疫学を中心として予防医学に関する教育研究に取り組んできました。平成16年度から開校される日本医科大学へ就任する予定です。当大学のカリキュラムは既存の大学ではみられないユニークな三つの教育分野から構成されており，私はその内の健康薬学で今日まで培って来た予防医学の知見を教育の場で展開する予定です。

## 編集後記

先生方のご協力により会報第9号をお届けすることができました。

筑波大学名誉教授の会も新たに20名の新会員を迎え，総数446名になりました。会員の方々の親睦と情報交換，及び大学の新たな情報をお伝えするのが会報の役割と考えています。今回も新入会員及び会員の皆様方の現況などをお知らせ下さいまして有り難うございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。とくに，今回は筑波大学が独立行政法人として新たに発足する年でもあり，新学長・岩崎先生，前学長・北原先生，元学長・宮島先生から原稿をいただきました。

[会報担当：佐藤泰正・島岡丘]